

《表紙の写真説明》

左上：リハビリ牛舎（勝央町）

繋ぎ方式の酪農家。足の痛みの激しい牛をこのフリーバーンに移す。防暑対策も考慮されており、このバーンで飼養することで、これまで廃用に使っていた牛が再び戦線復帰できる。牛舎内への通路があり、搾乳時は牛舎内の繋ぎに誘導する。

右上：サイロ解体材で作った育成舎（長船町）

F R Pサイロを解体し、育成舎とした。建設費は運搬費のみ。

左下：肉用牛哺育施設の水槽（津山市）

牛が顔を入れると反応してお湯が出る。お湯を出す前に、溜まっている汚れ水を排出するスグレモノ。

右下：モミガラ運搬車（熊山町）

一輪車に2輪を加え、お年寄りや女性でも安定した状態で、片手で簡単に動かせる。ブレーキまでついている。